

<仙台国税局長賞>

## 「税の役割」

西郷村立西郷第一中学校

3年 松浦 奈々帆

私たちにとって、最も身近な税、それは消費税です。今年の4月から、消費税率が5パーセントから8パーセントになりました。それまで税のことなど自分で深く考えたことがありませんでした。ですがこの3パーセントの上昇が税について考えさせてくれました。

ある時コンビニでパンを買おうと思い、ふと値段を見て「あれ」と思いました。前よりも何円かだけ高くなっていました。その時やっと消費税率の引き上げを実感しました。お金を払いながらパンならまだしも、家電など金額が高いものはさすがに家計にとって痛手だろうと思いました。そして「何で消費税を上げたんだろう」と思えてきました。

そんな時思い出したのが小学校の時に行われた租税教室です。当時は「税」というものがどこか遠い存在で、何を学んだのかうっすらとしか記憶にありませんでした。

それらを踏まえ、自分で税について調べてみようと思いました。インターネットで調べてみて、税の種類が消費税以外にもたくさんあることに驚きました。また直接税と間接税があることや、国、県、市町村にそれぞれ納める税があることを初めて知りました。そして集められた税は、私達の安全な暮らしを守る警察・消防や、道路・水道整備など、公的サービスや年金・医療、福祉、教育など、私達が生きていく上で必要不可欠な活動に使われている、ということも分かりました。そして「少子高齢化社会である日本が、どうやって社会保障の財源を得るか」ということが私が疑問に思った消費税の引上げの理由でした。所得税や法人税を引上げてしまうと、現在働く世代への負担が増えてしま

います。そこで、特定の人に負担が集中せず、国民全体で広く負担できる消費税が引上げになったそうです。

私は、今まで税について何も知らずに生きてきました。今回調べて、私がここまで育つことができたのは、両親をはじめ国民が払っている税金があつてこそだと思いました。国民が払う様々な税金が、それぞれ柱となってこの国を支えているのだと思います。歴史の授業から、それは今も昔も同じことなのだと思います。かつては租・庸・調、年貢米といった税がありました。しかしそれは、特定の人に負担がかかり、とても苦しいものでした。現在、税のしくみが整えられ、消費税のように、この国の一員である一人一人が平等に負担する税があるというのは、とても重要なことだと思います。

私達中学生は、今は自分で税金を払っていません。父や母に払ってもらっています。私達が、税金が払える歳になるまでにすべきこと、それは、税が担っている役割をしっかりと認識すべきことだと思います。そして自分が国を支える柱になるという自覚を持つことだと思います。私はこれから、立派な柱の一つになっていきたいと思っています。